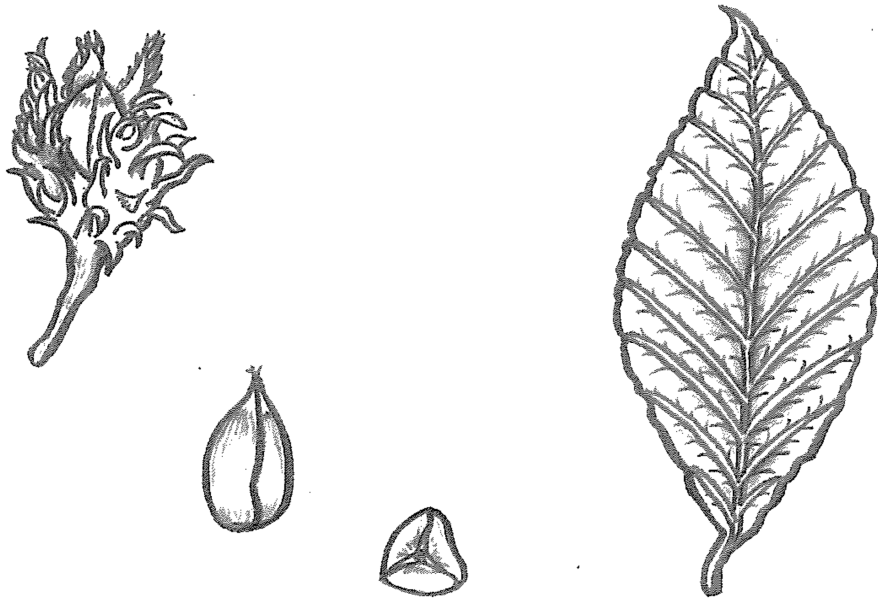


# 1 【ブナ】 榧

別名：シロブナ（白榧）



落葉 1年成り

水分を多く含む木で、昔は十分に乾燥させられないで、木材として活用するのがむずしくて「歩合（ぶあい）がよくない木」「分（ぶ）のない木」「役立たずのぶん投げるの木」と呼ばれ、転じて、ブナとなったといわれている。現在は、乾燥技術が進んだので、有用な木として家具などに使われている。

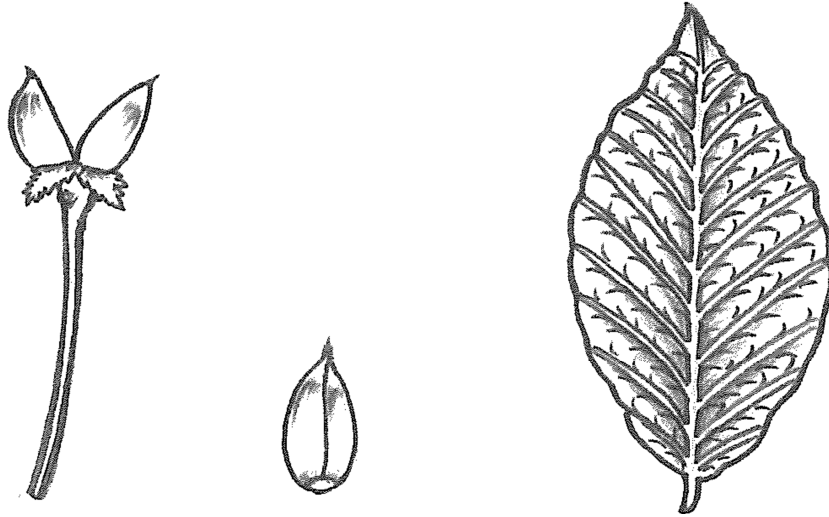
ドングリ：5から7年に一度大量に実るが、それ以外は不作の年が多い。先がとがった三角の実。殻斗の中には、ふつう二個入っている。実の柄はイヌブナよりも短い

葉：周りには波状のぎざぎざ（鋸歯）がある。葉が成長すると裏面に毛がない。測脈は7対から11対。

木：灰白色でなめらか。割れ目はない。地衣類や蘚苔類が着生していることが多い。

## 2 【イヌブナ】 犬樵

別名：クロブナ（黒樵）



落葉 1年成り

ブナよりも材質が劣ることから、役に立たないことを意味する言葉「犬」を前につけて、イヌブナとなった。ブナの実を小さくしたようである。

ドングリ：殻斗の中には普通先のとがった二個の実が入っている。焦げ茶色の角張った小さな実は、朝顔の種に似ている。柄が細くてとても長い。

葉：ブナより薄い。周りには波状の鈍いぎざぎざ（鋸歯）がある。裏面に絹毛がある。

木：黒っぽい。樹皮にイボ状のものが多い。